

政策体系	政策No.	3	政策名	活力ある産業のまちづくり			施策主管課	商工振興課	
	施策No.	3	施策名	観光業の振興	重点施策	○	施策主管課長名	谷口 隆幸	
施策関係課名		観光課、商工振興課、企画政策課							
1 基本計画期間(平成25年度～平成29年度)における施策の方針									
本市ならではの豊富な素材を活かした観光地づくりを推進するとともに、新たな情報発信方法の展開を工夫し、知名度の向上に努める。また、観光客の満足度を高めるため、観光関係機関や地域と一体となった「おもてなし」による受入体制の充実に努める。									
2 施策の目的と成果把握									
① 対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		観光業者・従事者							
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	観光業事業所数 ※観光協会に加入している事業所数	事業所	見込み値	250	260	270	280	290	300
			実績値	252	246	244	244	243	
B			見込み値						
			実績値						
C			見込み値						
			実績値						
③ 意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		経済的に豊かになる							
◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%～105%未満) △目標を未達成(95%未満)									
④ 成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	観光客数(宿泊+日帰り)	人	成り行き値	6,733,400	6,733,400	6,733,400	6,733,400	6,733,400	6,733,400
			目標値	7,500,000	7,650,000	7,803,000	7,959,000	8,118,000	8,118,000
			実績値	7,367,062	7,715,418	7,568,596	7,557,063	7,567,917	
			達成率	98%	101%	97%	95%	93%	
			結果	○	○	○	○	△	
B	観光客数(宿泊+日帰り)×観光客1人当りの消費額	百万円	成り行き値	50,230	50,230	50,230	50,230	50,230	50,230
			目標値	52,800	53,800	54,800	55,800	56,900	56,900
			実績値	55,235	56,973	55,300	54,593	54,320	
			達成率	105%	106%	101%	98%	95%	
			結果	◎	◎	○	○	○	
⑤ 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか)				⑥ 平成29年度の目標値設定の考え方					
A 観光客数(宿泊+日帰り) ※年度ではなく暦年(1～12月)での実績把握 B 観光客数(宿泊+日帰り)×観光客一人当たりの消費額 ※観光客数:鹿児島神宮、温泉センター、登山客、海水浴客などの観光施設の利用者数、ホテル、旅館の宿泊者数はホテル、旅館、観光施設からの市取得データ ※観光客1人あたりの消費額:県の推計データ(県外26,000円、県内13,000円、日帰り県外7,000円、県内3,000円) ※日帰り客数の県内外按分比率は過去の推計割合から5:5とする。				「観光客数(宿泊+日帰り)」及び「観光客数(宿泊+日帰り)×観光客一人当たりの消費額」については、新燃岳噴火の影響により、平成23年は大幅に観光客数が減少したが、新幹線全線開通や官民一体となった観光客誘致活動を展開することで徐々に回復した。しかしながら、平成28年4月に発生した熊本地震の影響等により宿泊者については昨年に引き続き減少した。今後も、関係機関や地域と一体となった誘客活動によるリピーターの確保、海外への積極的なセールスや情報発信などにより、平成28年度実績値の観光客数約757万人、観光消費額543億円から、それぞれ約55万人、約26億円の増加を目指す。					
				A					
				B					
				C					
				D					
				E					
				F					

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)

- 観光地としての本市の知名度を向上させる必要がある。
- 本市ならではの自然や景観を活かした魅力ある観光地づくりに取り組む必要がある。
- 地域の観光資源を発掘し、観光客誘致につながるような着地型観光商品を企画・開発する必要がある。
- 個人観光客でも容易に移動ができるように、空港や駅などから観光地までの二次アクセスを強化する必要がある。
- 常に新しい情報を多くの人に発信する取り組みとして、インターネットなどの方法を活用したPRを展開する必要がある。
- 観光協会と一体となった情報発信や観光宣伝、イベントの実施などにより、情報共有や協働事業の展開を図る必要がある。
- 外国人観光客への情報提供として、外国語版のパンフレットや案内表示板を充実させる必要がある。
- 再び訪れたい観光地づくりを進めていく上で、地域や関係機関と一体となった「おもてなし」を充実させる必要がある。
- 九州新幹線鹿児島ルート全線開業とともに、鹿児島空港を活かした観光客誘客に取り組む必要がある。
- 本市の観光動向を注視し、ニーズに即応した観光施策を展開する必要がある。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)

ア) 行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ) 市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割
<ul style="list-style-type: none"> ■国・県・市 ・市に観光客を誘致するための宣伝を行う。 ・観光関連従事者の育成や資質向上の為の接遇研修。 ・リアルタイムな観光情報の発信。 ・各種観光情報誌の作成。 ・県内外、海外からの観光客誘致活動。 ・観光客を受け入れる体制を整備する。 ・地域の特色を活かした観光資源の開発。 ・インバウンド対策。 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光業者(自助) ・自らの資質向上を図ること。 ・観光客を温かくお迎えする。 ・環境美化活動を推進(花いっぱい運動など)する。 ・観光客を誘致するための宣伝を行なう。 ・自ら経営努力を行う。 ・受入体制の整備を図る。 ■観光協会(自助) ・観光業者全体の資質向上を図る。 ・観光客を誘致するための宣伝やイベントを行う。 ・観光関係団体との連携を行い、観光の活性化を図る。 ■市民(協働) ・観光客を温かくお迎えする。 ・環境美化活動を推進する。 ・自ら自分達の地域を知る。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 旅行形態の多様化により、安い料金で多方面に行く旅行商品が増えている。
- 今後ますます小グループ化、個人志向の旅行が増えていく。
- 大型宿泊施設の閉館、硫黄山の規制等により福岡、中部、関西及び関東方面からの観光客が減少している。
- 香港線が増便されるなど、外国人観光客が年々増加することが見込まれることから、誘客活動や受入体制の充実が望まれている。
- 安心して旅行できる観光地としての安全対策や、的確な情報の提供が必要とされる。
- 誘客活動として、各種メディア・ホームページ・SNS等を活用した情報発信が必要とされている。
- 霧島錦江湾国立公園が国立公園満喫プロジェクトに指定され、今後、国や県と連携した取り組みが必要とされている。
- 明治維新150周年、NHK大河ドラマ「西郷どん」の放映を控え、官民一体となった誘客対策が求められている。

③ この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?

- 農商工観の連携をさらに図ってほしい。
- 市にある豊富な観光資源をさらに活用して観光客誘致を図るべきである。
- 国際線活用によって海外からの観光客を誘致すべきである。
- 通過型の観光客ではなく滞在型(宿泊)や体験型の観光客の増大を図るべきである。
- 二次アクセスの充実を図る。
- 知名度向上のための様々なPR方法の検討が必要である。
- 受入体制のための整備を図る必要がある。

5 施策の現状

① 平成28年度施策の取組方針	② 平成28年度施策の取組方針の達成状況
<p>①豊富な自然観光を生かすため、現状の再認識及び現況を生かした観光地づくりと観光素材のPR、提供を行う。</p> <p>②多種多様な温泉に恵まれていることへの再認識と、温泉を生かした観光素材づくりを行う。</p> <p>③自然や歴史、文化などの素材を活かす方策を具体化し、実行に移す。</p> <p>④交通の要衝であることを生かすとともに、地域に点在している観光地への二次アクセス向上に努める。</p> <p>⑤火山と共生するため、関係機関が一体となった安全対策を講じる。</p> <p>⑥外国人観光客を受け入れるための体制づくりを行う。</p> <p>⑦観光基本計画の後期(新戦略プログラム)の進捗状況を精査し、現状や動向を踏まえた観光戦略を講じる。</p>	<p>①森林セラピーロードや九州オルレコース、大出水湧水公園の整備など、霧島の自然を満喫できるよう受入環境の整備を図りながら、積極的に情報発信し誘客活動に努めた。</p> <p>②浴育学習やゆ旅事業、霧島温泉大使アヒル隊長を通じて、温泉に関する知識の習得や普及を図り、また、温泉を活用した観光素材の開発を行った。</p> <p>③霧島山等を活用したジオツアー、森林セラピー及びオルレイベントのほか、和服体験事業を行った。</p> <p>④周遊バス等については、飛行機やJRのダイヤ改正に合わせた運行を行った。</p> <p>⑤火山の状況に合わせたトレッキングマップの修正や、HP等による最新の情報発信を行った。</p> <p>⑥パンフレットの多言語表記やいざ霧島キャンペーン実行委員会による研修会を実施した。</p> <p>⑦平成25年度に策定した霧島市観光基本計画新戦略プログラムに基づき、観光客誘致宣伝活動や観光客の受入体制の充実を図るなど、観光振興対策を講じた。</p>

③ 平成28年度施策の目標値と実績値の比較

- 目標達成 ◎ 105%以上
- 目標をほぼ達成 ○ 95%~105%未満
- 目標を未達成 △ 95%未満

平成28年度成果指標				
	目標値	実績値	達成率	結果
A	8,118,000	7,567,917	93%	△
B	56,900	54,320	95%	○
C				
D				
E				
F				

④ 平成28年度施策の成果指標の達成状況及び要因

- A. 観光客数(宿泊+日帰り)については、平成27年と比較すると約10,800人増加した。宿泊者については前年と比較すると減少しており、主に熊本地震の影響によるものと思われる。日帰り客数については前年と比較すると微増しており、いざ霧島キャンペーン実行委員会による誘客キャンペーンの実施や、熊本地震の影響に伴い域内観光が促進されたものと思われる。
- B. 観光消費額は、平成27年と比較すると約2億7千万円減少し、目標値に対する達成率も下回る結果となった。主な要因はAと同様である。

⑤基本事業の 目標達成度 (平成28年度目標と 実績との比較)	○=すべての目標値を達成 △=一部の目標値を達成 ×=すべての目標値を未達成		
	① 観光客誘致宣伝活動の展開	○	⑤
② 地域の特色を活かした観光資源の開発	○	⑥	
③ 観光客の受け入れ体制充実	○	⑦	
④ 海外からの観光客の誘致	△	⑧	

6 平成29年度の施策の取組方針 (昨年度マネジメントシートより)	7 平成30年度に向けた施策の課題・方向性
<p>①豊富な自然観光を生かすため、現状の再認識及び現況を生かした観光地づくりと観光素材のPR、提供を行う。</p> <p>②多種多様な温泉に恵まれていることへの再認識と温泉を生かした観光素材づくりを行う。</p> <p>③自然や歴史、文化などの素材を活かす方策を具体化し、実行に移す。</p> <p>④交通の要衝であることを生かすとともに、地域に点在している観光地への二次アクセス向上に努める。</p> <p>⑤火山と共生するため、関係機関が一体となった安全対策を講じる。</p> <p>⑥外国人観光客を受け入れるための体制づくりを行う。</p> <p>⑦観光基本計画の後期(新戦略プログラム)の進捗状況を精査し、現状や動向を踏まえた観光戦略を講じる。</p>	<p>①豊富な自然観光を生かすため、現況を生かした観光地づくりと観光素材のPR、提供を行う。</p> <p>②多種多様な温泉を生かした観光素材づくりを行う。</p> <p>③自然や歴史、文化などの素材を生かす方策を具体化し、実行に移す。</p> <p>④交通の要衝であることを生かすとともに、観光地への二次アクセス向上に努める。</p> <p>⑤安心して旅行できる観光地とするため、関係機関が一体となった安全対策を講じる。</p> <p>⑥外国人観光客を受け入れるための体制づくりを行う。</p> <p>⑦平成29年度中に策定を行う観光総合戦略に基づき、現状や動向を踏まえた施策を講じる。</p>

基本 事業No.	3-3-1	基本事業名	観光客誘致宣伝活動の展開	基本事業 主担当課	観光課
-------------	-------	-------	--------------	--------------	-----

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）			
市観光協会、県観光課、県観光連盟、鹿児島四地区観光連絡協議会等と連携を密にし、市内の観光案内施設における情報提供や国内主要都市における効果的な観光客誘致活動を行う。また、マスメッセージやホームページ、インターネット等各種メディアを活用した広報宣伝活動を行う。			
②対 象	国内旅行者	③意 図	霧島市を訪れてもらう。

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値 区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	国内からの宿泊観光客数	人	霧島市観光統計	成り行き値	861,000	861,000	861,000	861,000	861,000	861,000
				目標値	959,000	978,000	997,000	1,017,000	857,000	857,000
				実績値	966,141	947,019	872,446	832,424	822,116	
				達成率	101%	97%	88%	82%	96%	
				結果	○	○	△	△	○	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 国内における日本人観光客数は減少傾向にあるが、国立公園や温泉などの豊かな自然に恵まれ、鹿児島空港所在地としての優位性を活かしながら積極的な誘客活動を進めることで、平成28年度実績値の4%増を目標とする。

4 平成28年度基本事業の取組方針 5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況

<p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ユーチューブなどの動画配信による情報発信 ■民間企業との連携やキャラクターを活用したプロモーション ■ロケ誘致やフィルムコミッションの充実 ■空港利用者をターゲットにした情報発信(空港PRブースの活用) ■鹿児島市内及び離島、隣県連携 	<ul style="list-style-type: none"> ■動画配信による情報発信準備に取り組んだ。 ■官民一体で組織する「いざ霧島キャンペーン実行委員会」での誘客事業や霧島温泉大使「アヒル隊長」を活用したPR活動に取り組んだ。 ■ロケ支援や誘致活動を通じて情報発信を行った。 ■霧島市内の観光案内や情報発信、おもてなしコーナーでの霧島市の特産品のPRに努めた。 ■各種協議会等を通じて、観光客誘客活動を展開した。
--	--

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

平成28年度の目標値と比較すると約35,000人、平成27年度の実績値と比較すると約10,000人それぞれ減少した。主な要因としては、平成28年4月に発生した熊本地震が影響したと思われる。
--

7 平成29年度基本事業の取組方針 8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性

<ul style="list-style-type: none"> ■ユーチューブなどの動画配信による情報発信 ■民間企業との連携やキャラクターを活用したプロモーション ■ロケ誘致やフィルムコミッションの充実 ■空港利用者をターゲットにした情報発信(空港PRブースの活用) ■鹿児島市内及び離島、隣県連携 	<ul style="list-style-type: none"> ■動画配信サイトやSNS等を利用した情報発信 ■民間企業や市民との連携及びキャラクターを活用したプロモーション ■ロケ誘致やフィルムコミッションの充実及び新たな受入体制の検討 ■空港利用者をターゲットにした情報発信(空港PRブースの活用) ■鹿児島県内及び隣県等による広域での連携した取組
--	--

基本事業No.	3-3-2	基本事業名	地域の特色を活かした観光資源の開発	基本事業 主担当課	観光課
---------	-------	-------	-------------------	--------------	-----

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
<ul style="list-style-type: none"> ■体験や着地型の旅行志向が高まる中、地域、行政、観光協会及び旅行エージェントとともに、国立公園や温泉群などの豊かな資源を活かして、山や川、海などの体験型、スポーツ・芸術・文化・歴史・ジオパークなどの学習型、セラピーロードを活用した健康志向型など、観光客の様々なニーズにあった商品を企画・提案する。 ■本市の特産品である関平鉱泉水については、生産施設の整備や充実を図り、新商品の開発や販路拡大に努める。 ■関係機関と連携し、スポーツキャンプや各種教育施設等を活用した会議等の誘致を促進する。 ■霧島茶や黒豚、黒牛、黒酢など本市の特産品を使用した食による観光素材の開発を促進する。 	
②対象	地域資源
③意図	観光に活用できる資源が開発される

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
				成り行き値	4	4	4	4	4
A 開発された観光資源の数	本	開発された観光資源の数(累計)	目標値	25	30	35	40	45	50
			実績値	29	35	37	39	43	
			達成率	116%	117%	106%	98%	96%	
			結果	◎	◎	◎	○	○	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 観光、商工関係者、地域や学校などとの連携により、観光推進につながる様々な観光素材の開発に努め、最終目標年度までに「観光素材霧島50選」を目指す。

4 平成28年度基本事業の取組方針 **5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況**

<p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■感動の生まれる体験型観光商品の開発 ■日本初の国立公園を活かし、山、川、海の素材を活用した話題性のある取組 ■地元食材等を活用した特色ある観光素材の開発 ■関平鉱泉水生産施設の建設施工管理及び新商品の開発や販売の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ■霧島高原自然体験ツーリズム協議会を中心に体験型メニューの開発に取り組んだ。 ■霧島の自然を活かした観光素材を新たに追加したことにより、観光客の誘客促進と地域の活性化を図ることができた。 ■温泉水を活用した食材やメニュー開発に取り組んだ。 ■新工場の完成により、効率的な運営が図られ、販売促進に繋がった。
--	---

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

新たに4つの観光資源を追加できた。内容としては「えびの岳」・「大出水湧水公園」・「関平鉱泉所工場」を整備し、森林セラピーロード「霧島神水峡遊歩道コース」が認定され、新たな観光スポットとして観光客の誘客促進と地域の活性化を図った。

7 平成29年度基本事業の取組方針 **8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■感動の生まれる体験型観光商品の開発 ■日本初の国立公園を活かし、山、川、海の素材を活用した話題性のある取組 ■地元食材等を活用した特色ある観光素材の開発 ■関平鉱泉水の新商品の開発や販売の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ■感動の生まれる体験型観光商品の開発 ■日本初の国立公園を活かし、山、川、海の素材を活用した話題性のある取組 ■地元食材等を活用した特色ある観光素材の開発 ■関平鉱泉水の新商品の開発や販売の促進
--	--

基本 事業No.	3-3-3	基本事業名	観光客の受け入れ体制充実	基本事業 主担当課	観光課
-------------	-------	-------	--------------	--------------	-----

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 接遇、観光案内などの研修会とともに、観光関係団体、地域と一体となった「おもてなし」の意識向上と実践を協働して行う。 ■ 観光案内に資する観光ボランティアガイドの育成を図る。 ■ 二次アクセスの向上に努め、個人や交通弱者でも移動しやすい観光地づくりを推進する。 	
②対 象	観光業者・観光協会・市民・旅行者
③意 図	来訪者をもてなす受け皿ができる

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値 区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	もう一度行ってみたい温泉地 ランキング	位	じゃらん実施のアンケート	成り行き値	26	27	27	28	28	29
				目標値	21	14	13	12	11	10
				実績値	14	16	15	17	16	
				達成率	133%	86%	85%	58%	55%	
				結果	◎	△	△	△	△	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 観光、商工関係者、地域や学校などとの連携により、おもてなしの研修や実践、魅力ある観光地づくりに努め、毎年度1ランクの向上を目指し、平成29年度には全国10位以内を目標とする。

4 平成28年度基本事業の取組方針 **5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況**

<p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 官民一体となった「おもてなし研修」の実施 ■ 子どもや高齢者、障がい者にやさしいバリアフリー観光の推進 ■ ガイドクラブ内のネットワークのさらなる強化 ■ 二次アクセス改善の具体的展開 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 官民一体となった「おもてなし研修」を実施した。 ■ 活性化団体への支援を行い、駅周辺の美化活動に取り組んだ。 ■ 宿泊施設や観光施設等のバリアフリー化に取り組んだ。 ■ 霧島市観光ガイド連絡協議会において各ガイドクラブの連携・強化を図った。 ■ 周遊バス等については、飛行機やJRのダイヤ改正に合わせた運行を行った。
--	--

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

目標には達しなかったが、前年度と比較すると1ランク上昇した。平成28年度については、熊本地震の影響を受けたものの、官民一体となった取り組みによるものと思われる。

7 平成29年度基本事業の取組方針 **8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■ 官民一体となった「おもてなし研修」の実施 ■ バリアフリー観光の推進及びユニバーサルデザインの導入・検討 ■ 霧島観光ガイド連絡協議会の機能強化 ■ 二次アクセス改善の具体的展開 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 官民一体となった「おもてなし活動」の展開 ■ バリアフリー観光の推進及びユニバーサルデザインの導入・検討 ■ 各ガイドクラブ等同士の連携した取組み ■ 二次アクセス改善の具体的展開 ■ 国立公園満喫プロジェクトによる国や県と連携した取組の推進
--	---

基本 事業No.	3-3-4	基本事業名	海外からの観光客の誘致	基本事業 主担当課	観光課
-------------	-------	-------	-------------	--------------	-----

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

- 国際航空路線を要する鹿児島空港所在地である優位性を活かし、効果的な観光客誘致活動を行う。また、マスコミュニケーションやホームページ、インターネット等各種メディアを活用した広報宣伝活動を行う。
- 外国人が分かりやすく安心して観光できるように、外国語表記による観光案内板や観光パンフレットの作成に取り組む。

②対 象	海外からの旅行者	③意 図	霧島市を訪れてもらう。
------	----------	------	-------------

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分						
				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)	
A	外国人宿泊観光客数	人	霧島市観光統計	成り行き値	37,000	37,000	61,000	88,000	90,000	90,000
				目標値	43,000	44,000	45,000	100,000	121,000	133,100
				実績値	52,459	75,335	88,063	110,932	104,381	
				達成率	122%	171%	196%	111%	86%	
				結果	◎	◎	◎	◎	△	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 海外からの観光客数については、世界情勢の変化や政治的背景などにより大きく左右される傾向があるが、空港所在地としての優位性を生かし、積極的なセールスに努め、平成28年度からは前年度比10%の増加を目標とする。

4 平成28年度基本事業の取組方針 5 平成28年度基本事業の取組方針の達成状況

<p>【霧島市観光基本計画新戦略プログラムによる主要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■鹿児島空港国際線定期便就航地をターゲットにした効果的なプロモーション ■現地キーパーソンとの関係強化 ■旅行代理店を招いた商談会への参加及び実施 ■外国語表記や観光案内、通信環境など外国人受入体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ■韓国及び台湾での現地セールス(トップセールスを含む)を実施した。 ■韓国及び台湾での現地キーパーソンとの交流及び連携強化等の確認を行った。 ■現地旅行エージェントに対するセールスを実施した。 ■いざ霧島キャンペーン実行委員会による外国語講習会の実施や、免税制度に関する講演会を実施した。
---	---

6 平成28年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

平成28年度の目標値と比較すると約16,000人、平成27年度の実績値と比較すると約6,500人それぞれ減少した。主な要因としては、平成28年4月に発生した熊本地震が影響したと思われる。

7 平成29年度基本事業の取組方針 8 平成30年度に向けた基本事業の課題・方向性

<ul style="list-style-type: none"> ■鹿児島空港国際線定期便就航地をターゲットにした効果的なプロモーション ■現地キーパーソンとの関係強化 ■旅行エージェントを招いた商談会への参加及び実施 ■外国語表記や観光案内など外国人受入体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿児島空港国際線定期便就航地及びアセアン地域をターゲットにした効果的なプロモーション ■現地キーパーソンとの関係強化 ■旅行エージェントを招いた商談会への参加及び実施 ■外国人観光客の受入体制の充実
---	---